



昭和大学藤が丘病院

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院

病院だより

2016年9・10月
第312号

病院だより第312号 (2016年9・10月号)
 発行者 昭和大学藤が丘病院
 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院
 発行責任者 藤が丘病院長 高橋 寛
 編集責任者 広報委員長 田中 淳一
 〒227-8501 横浜市青葉区藤が丘 1-30
 Tel 045-971-1151

2016 リオ・デジャネイロオリンピック サッカー男子日本代表に帯同して

昭和大学藤が丘病院 整形外科 講師 高木 博
(10月1日付で昭和大学病院へ異動)

21歳以下(U21)のサッカー日本代表として2014年1月のU22アジア選手権から活動を開始したりオオリンピック日本代表は、2016年8月10日のスウェーデン戦まで約2年8ヶ月の間、オリンピックでのメダル獲得を目標として戦いました。



私は、2013年9月に行われたU21日本代表帯同ドクターとして参加した第6回東アジア大会から約3年間、本チームにチームドクターとして関わることができました。3年前は幼い印象だった選手達は、2016年1月に行われたオリンピック予選(U23アジア選手権)で優勝し、アジアチャンピオンとしてリオオリンピックに乗り込める程に、たくましく成長しました。

今回サッカー男子日本代表チームは、7月19日に幕張に集合し、21日にブラジルはアラカジュでの直前合宿へ向かいました。7月30日にはブラジルオリンピックチームと親善試合を行いました。サッカー王国ブラジルとの試合は、異様な盛り上がりの中で行われ、その勢いと強さに圧倒された感じがありました。その後戦いの地であるマナウスへ移動しました。マナウスはアマゾンの都市で、湿度が高く蒸し暑いところであり、蚊が媒介する疾病につき虫除けなどを準備し現地に入りましたが、想像よりは蚊は少なく、ジカ熱を含む疾病の発生はありませんでした。大会前からの負傷などによる持ち込みの障害は多くありましたが、期間中の毎日の治療とコンディショニングケアにより、悪化して問題となる選手はいませんでした。下痢や発熱などの内科的疾患を発症した選手も少なく、期間中の新しい外傷・障害で練習の調整をした選手もおりま



マナウスのスタジアムでチームスタッフと (向かって右端が筆者)

したが、こちらもプレーができる状態のまま経過することができて、全期間を通じてチームのコンディションは良好でした。

成績は皆さんご存じの通り、予選リーグ1勝1敗1分けて、残念ながら決勝トーナメント進出には至りませんでした。短期間の大会では初戦の入り方が重要となりますが、例に漏れず今回のチームも初戦のナイジェリア戦を落としたのが最後まで響きました。最終的に8月11日にサルバドルから帰国の途につき8月13日に解散となる、26日間の活動となりました。

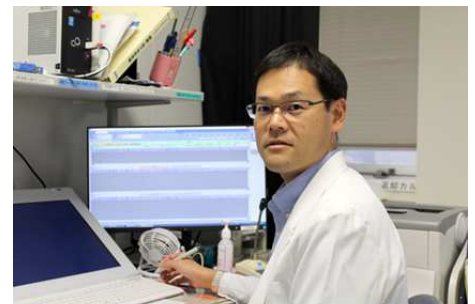
このチームの立ち上げからオリンピックまでの間、とても貴重な体験をさせて頂きました。チームの遠征に帯同して病院に不在の期間が多く、関係の皆様には多大なご協力を頂きまして、本当に感謝しております。この経験を今後の診療に役立てていきますので、よろしくお願いします。

緑内障専門外来が始まりました

リハビリテーション病院 眼科医長 西村 栄一

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院眼科では、外来における緑内障治療の充実を図るために2016年9月29日(木)より昭和大学病院附属東病院眼科講師 齋藤雄太先生のご協力を得て月1回(第4木曜日午後14:00~17:00)、緑内障専門外来を開設いたしました。これまで以上に緑内障患者さんの症状や経過に沿って継続的に治療を行うことが可能となりました。

緑内障は眼圧上昇等により視神経が障害され、視野が欠ける病気です。視力低下や視野障害の程度や経過は患者さんにより異なりますが、多くは慢性で、通院・治療は長期にわたります。当緑内障専門外来では、各種検査結果をもとに、知識と経験を持って、最適な治療方針を提案していきたいと思っております。



緑内障外来担当 齋藤 雄太講師

対象となる主な患者さんは長期にわたり眼圧検査、画像診断、視野検査などを含んだ専門的な診断や手術治療が必要な緑内障患者さんですが、緑内障疑いの患者さんやセカンドオピニオンとしての診察ももちろん可能です。

月1回の診療となりますので、近隣病院のかかりつけの先生方と連携をとりながら患者さん個人個人に合わせた最

適な治療を行いますので、近隣病院のかかりつけの先生方と連携をとりながら患者さん個人個人に合わせた最

適な医療を提供していきたいと思っております。

予約制ですので、ご予約が必要となります。ご予約の際は、昭和大学藤が丘リハビリテーション病院予約センター(045-978-6603)まで、お問合せください。

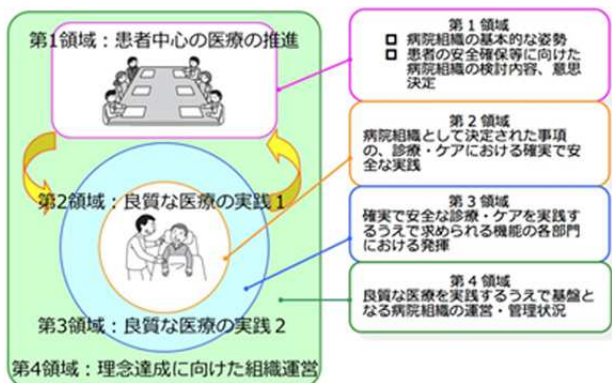
病院機能評価に向けた取り組みについて

藤が丘病院管理課 岩崎 直樹

昭和大学藤が丘病院では、「病院機能評価」という第三者評価を受審する予定であり、現在準備を進めています。

○病院機能評価とは

病院機能評価とは、公益財団法人日本医療機能評価機構により、病院組織全体の運営管理および提供される医療について中立的、科学的・専門的な見地から行われる評価です。この評価では、国民が安全で安心な医療が受けられるよう、4つの評価対象領域(「患者中心の医療の推進」「良質な医療の実践 1」「良質な医療の実践 2」「理念達成に向けた組織運営」)から構成される評価項目を用いて、病院組織全体の運営管理および提供される医療について評価されます。



一定の水準を満たした病院は「認定病院」となり、認定証が交付されます。当院は既に5年前に病院機能評価を受審し、認定病院となっています。今回、認定期間が終了するのに伴い、改めて受審することになりました。

○機能評価の意義

当院では、理念達成や地域に根差し、安心・安全、信頼と納得の得られる医療サービスを効率的に提供するために、改善活動を日常的に行っています。質の高い医療を効率的に提供するためには、病院の自助努力が最も重要ですが、更に効果的な取り組みとするためには、第三者による評価が有用となります。例えば、第三者から評価を受けることにより、病院の位置付けや問題点が明らかになります。そこから、病院の更なる改善活動につなげ、病院体制の一層の充実や医療の質の向上を図ります。

○準備状況について

機能評価を受審するにあたり、当院では準備委員会を立

ち上げ、受審に向け病院が一丸となって取り組んでおります。具体的には、それぞれの評価項目に基づき、改めて当院の組織運営、提供している医療の質、安全・安心について、現状の体制を振り返り、自己評価を行っています。そこで明らかとなった問題点を把握した上で、院内で検討し改善を図っています。来年1月には訪問審査が行われます。

来年の春に認定を受けることを目標に、更に質の高い医療を提供できるよう、改善に取り組んでまいります。

院内部署紹介

機能訓練室の紹介

リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター
理学療法士 前田 卓哉

リハビリテーション病院の理学療法士が、主に患者さんに治療を行う場所が運動療法・機能訓練室です。私たちは、患者さんの機能回復・改善、また理学療法の特徴である歩行や起き上がりなどの基本動作への介入を行います。当院に入院されている患者さんのほとんどが理学療法の対象であり、心大血管・脳血管・運動器・呼吸器・小児疾患など様々な疾患を対象としています。また、2階・4階病棟は回復期病棟となっており、365日リハビリテーションを提供しています。私たちの行う理学療法やリハビリテーションの結果は、患者さんの今後の生活や人生にかかわってきます。介入期間中に身体機能の改善を図ることはもちろんですが、介入期間が終了してからも患者さんが有意義な生活を送れるような治療介入を目指し日々努力しています。



院内部署紹介

5階南病棟の紹介です

藤が丘病院5階南病棟 師長 佐藤 由紀

藤が丘病院5階南病棟は形成外科・消化器内科の混合病棟で病床数は27床と、藤が丘病院の一般病床の中では一番小さな病棟です。形成外科は外傷や鼻骨・頬骨骨折、下肢壊疽、褥瘡、眼瞼下垂等々、多岐に渡る手術を行っています。消化器内科は内視鏡治療、がん精査・治療、炎症性疾患等の内科的治療を行っています。このように病棟編成が混合病棟のため、看護師は知識の習得や技術の研鑽を積んで、患者さんに安全・安心の看護の提供を実践し



ています。さらには入院患者さんが最善の治療が受けられ早期に退院ができるように、入院時より様々な専門チームが介入しています。患者さん・家族に寄り添うため、藤が丘病院5南病棟医療スタッフは日々笑顔を忘れず、常にコミュニケーションを取り、チーム医療を発揮すべく質の高い医療を目指しております。



藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院 合同ワークショップが開催されました

9月2日(金)から3日(土)にかけて、オンワード総合研究所人材開発センター(横浜市都筑区)において、『地域中核病院としての役割と藤が丘・リハビリ病院の連携強化』をテーマに平成28年度 藤が丘病院・リハビリ病院合同ワークショップが開催されました。両院合わせて39名の参加者が5班に分かれ、「問題点の抽出・優先順位の決定」、「問題点の解決策」、「解決策の具体的実行案」、「具体的実行案の修正とスケジュール作成」という全4セッションで討議、発表、質疑応答を行いました。また、1日目には小口理事長、小出総括病院担当理事の講話が行われ、2日目の最後には高橋藤が丘病院長、三邊理事から講評を頂きました。最後に参加者に修了証が市川リハビリ病院長から授与されワークショップは無事終了しました。



なお、今回のワークショップの報告会が11月17日(木)に行われる予定です。

(藤が丘病院管理課 岩崎 直樹)

藤が丘病院緩和ケア研修会が開催されました

平成28年9月3日(土)~4日(日)、藤が丘病院B棟6階講堂にて「藤が丘病院緩和ケア研修会」が開催されました。がん対策推進基本計画に基づき、厚生労働省の開催指針に沿った本研修会は、当院においては2回目の開催

であり、昭和大学病院・昭和大学横浜市北部病院・昭和大学江東豊洲病院など多くの病院の方々にご協力頂きました。企画責任者の岡本健一郎教授(横浜市北部病院・緩和医療科)をはじめ、他病院の講師・ファシリテーターの方々の丁寧な指導の下、藤が丘病院の職員が中心となり活気溢れる研修会となりました。講義だけでなくロールプレイを含む本研修会では、職種・病院の垣根を越えて積極的な意見交換がなされていました。今回の研修会では医師21名、コメディカル3名が全単位を修了しました。



(藤が丘病院管理課 毛利 綾香)

藤が丘病院DMATチーム 大規模災害訓練に参加!!

9月11日(日)、「ビッグレスキューかながわ(神奈川県・横須賀市合同総合防災訓練)」という大規模災害訓練に藤が丘病院DMATチームも参加しました。三浦半島を震源とするM6.7の地震により横須賀市を中心に甚大な被害が出ているという想定で行われました。必要な資器材を当院DMATカーに積み込み、個人装備を装着して一次集集地である藤沢市民病院DMAT本部に向かいました。そこから更に横須賀共済病院へ病院支援に向かいました。藤が丘病院DMATチームは同院でトリアージ後



の赤エリアの診療支援に従事しました。次々押し寄せる重症患者さんを評価、処置し、その後の方向性をつける、正に本番を想定した緊張感あふれる訓練でした。

当院は災害拠点病院である自覚を持ち、責務を果たすべく、今後も災害時の対応について日々精進していきたいと思っております。

(藤が丘病院救命救急センター 渡邊 兼正)



接遇マナー講習会が開催されました

9月12日(月)、藤が丘病院6階講堂にて、SOMPOリスクアマネジメント株式会社の能村 仁美先生を講師にお迎えして「藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院接遇マナー講習会(患者サービス委員会主催)」が開催されました。能村先生は元



医療従事者という経験から、患者さん・ご家族との良好なコミュニケーションを築くための要素として、

- ・伝えたこと=伝わったことではなく、双方向のコミュニケーションが必要
- ・苦情対応は出来事に対する対応ではなく、相手が分かって欲しいものを分かって欲しい形で理解し対応
- ・聴く、認める、引き出す(質問)、伝える、確かめるの5つのポイントが、患者さんが話しかけやすい雰囲気を作ることをあげ、具体的な事例を交えてご講演くださいました。会場では受講者が熱心にメモを取る姿が見られ、充実した講演会となりました。

(藤が丘病院管理課 佐藤 賢)

第7回 横浜シーサイドトライアスロン 救護活動に参加して

9月25日(日)、横浜市金沢区八景島で「第7回横浜シーサイドトライアスロン大会」が開催されました。本大会は、誰でもチャレンジしやすい距離のトライアスロンや障害のある方のレースであるパラトライアスロン、スイムとランの2種目で競われるアクアスロン、小学生から参加でき親子で楽しめるペアチャレンジ、仲間と一緒に参加できるリレーなど、多くのカテゴリーがありたくさんの方が楽しめる「市民大会」として知られています。それだけに「初トライアスロン」の選手が多く、また年齢層も幅広く、今回も1,000名以上の参加者が八景島周辺を駆け巡りました。



私たちは、救護所の設営から始まり、人員の配置や重症傷病者が発生した時の対応、多数傷病者の際の救護所の運営、導線のコントロールなど、いずれも災害時には欠かせない貴重な経験をさせていただきました。来年もまた当院から救護所運営に参加させていただき、横浜市に協力させていただくと共に、災害拠点病院として役立つ経験を積み重ねていきたいと思いました。



(藤が丘病院救命救急センター 渡邊 兼正)

診療統計 2016年8月・9月

	藤が丘病院		リハビリテーション病院	
	2016年8月	2016年9月	2016年8月	2016年9月
外来患者数	26,982人 (1,037.8人)	26,271人 (1,094.6人)	4,041人 (155.4人)	3,958人 (164.9人)
入院患者数	15,376人 (496.0人)	14,787人 (492.9人)	5,303人 (171.1人)	4,828人 (160.9人)
紹介率	79.5%	82.6%	62.5%	67.4%
逆紹介率	67.8%	64.8%	75.9%	86.1%

《編集委員》

田中 淳一	佐々木 春明	市川 度	池田 裕一	小岩 文彦	磯 良崇
芳賀 ひろみ	辻本 さなえ	猪股 里美	出川 美幸	杉山 創	小宅 育代
岩井 譜憲	圓乗 佑太	大塚 凌	高橋 良治	(順不同)	